

## 平成 19 年度、設置認可申請書、大学等の設置に係る 設置計画履行状況及び留意事項の実施状況の開示について

弘前学院大学は、平成 17 年 4 月に看護学部を開設しましたが設置認可申請書とその設置計画に対する履行状況及び留意事項の対応状況について、ここに開示します。

### I 設置認可申請書の開示

#### 看護学部の設置の趣旨

弘前学院は平成 16 年、創立 119 年を迎えます。青森地域の女子教育振興を目的にキリスト教精神の「畏神愛人」を基盤にした教育研究活動を地道に重ね、卒業生は中学、高校、短大、大学合計 32,620 人になります。とくに、この半世紀は青森県嚆矢となった短大英文科による英語教育の人材養成をはじめ、同生活福祉学科による科学的かつ総合的な衣食住生活の教育研究を通しての普及活動、そしてこれらは、弘前学院大学文学部（昭和 46 年）、同社会福祉学部（平成 11 年）に結実し、青森県に於ける私学高等教育機関を代表する大学に成長しました。平成 15 年には大学院社会福祉学研究科も開設し、現在大学院、大学計 790 名、高校を合わせると 1,535 名が学んでおります。

これはキリスト教による人格形成を目指して高い理想を掲げ、清新な学風のもと、つねに前向きに学生、教員、職員が一体となって教育研究に取り組んでいる成果と自負しています。

今般、弘前学院大学が東北地域に於ける私立大学として初めての看護学部を設置しようとするのは、このような青森県民の本学に対する熱い支持を背景に、県民の強い関心となっている高齢社会に於ける医療看護分野に於ける新たな課題に積極的に対応しようと考えているからです。

即ち、青森県の高齢化は全国平均を上回る規模とスピードで進展しており、それに伴う疾病構造も複雑な様相を呈しています。医療の内容が高度化しているばかりでなく、医療看護を求める場が広がり、その要求は県民ひとりひとりが安心して安全に毎日を暮らせるようにと深化しつつあります。とくに看護専門職は、これまでの医療の場にとどまって医療施術の担い手としてだけでなく、さまざまな社会福祉関連施設に加えて地域や職場、家庭などでも活躍するよう期待されています。

青森県に於いては、これらの現状を踏まえ近年県立保健大として、4 年制看護大学が設置されていますが、残念ながら懸案解決に十分に対処するところまでは至っていません。このため、医療現場を預る青森県医師会は、関係機関をはじめ県庁当局者も加えて「青森県看護職員養成検討委員会」を設けて対応策を検討した結果、平成 14 年 12 月 2 日に「看護職養成校の新設」を答申しております。

その根拠として既存の看護大学が県外の出身の入学者に占められ、就職先も県外となっている実状および准看護師養成校の減少など看護を下支えする新卒者の絶対数不足が因とされています。平成 17 年以降供給不足は深刻な事態に陥ると指摘しています。

弘前学院大学看護学部は、こうした青森県の現状を踏まえつつ、看護専門職として医療の高度化に対応する最新の知識や技術を習得するのはむろん、とくに最近の医療過誤事件などで焦点となっている医療倫理をしっかりと体得し、看護を必要とするひとりひとりの立場に立ってサービスを提供するとともに、今日いちばん関心を集めている地域における看護活動を率先して担っていけるような人材を育成しようと考えここに東北地域最初の私立大学看護学部設置を決意しました。

弘前学院 119 年の歴史と伝統に培われた「畏神愛人」教育は、神と人間との存在と関係を真正面からとらえつつ、疾病に苦しんでいるひとりひとりを如何に安心させるかを自らの課題に、神を恐れ人間を愛することを通して修得した知識と技術を統合して発揮できる看護専門職を育てます。

これには既存の文学部と社会福祉学部が大きな力を発揮します。既に両学部とも青森県に根ざした教育研究を続けていますので、そこで得られたさまざまな現場での体験や声は、看護学部と有機的に結びつくことで、ただ単に看護専門職としての知識と技術の習得にとどまらず、ひとりひとりの人間や地域社会との係わりや広がりなどを踏まえて重点的で総合的な取り組みを可能にするものと信じます。

弘前学院大学看護学部は他にはない人間として幅の広い、かつ神と人間の間を知るいたわりの心を持っている看護専門職の育成を通して青森県民、否、東北地域全域からの熱い期待に応えることができると確信しています。

## II 設置に係る設置計画履行状況の開示

### 1. 大学の概要

設置者	学校法人 弘前学院
大学名	弘前学院大学
大学の位置	青森県弘前市大字稔町 20-7

### 2. 入学定員及び入学者数について

入学定員	50 名
入学者数	平成 17 年度 60 名
	平成 18 年度 64 名
	平成 19 年度 63 名

### 3. 未開講科目及び廃止科目について

ありません

### 4. 施設・設備の整備状況、経費について

校地・校舎・図書・設備等計画通り実施しております

### 5. 専任教員について

設置計画に基づいて適切に配置しております

### 6. 留意事項に対する履行状況について

留意事項はありません

### 7. 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学では、人間としての幅の広い、かつ神と人間との関係を知るいたわりの心を持ち、新しい時代に即応できる看護専門職の育成を目指した教育を行うなど設置の趣旨にあげた目的を達成するために、開設 3 年目に当たる今年度は、18 年度に続き以下の点に取り組み成果を収めている。

- (1) 人間として幅広い、かつ神と人間との関係を知るいたわりの心を持っている看護専門職の育成：本年度は、新入生対象のリトリート教育、礼拝、基礎演習に加え在学に対するリトリート教育も行い、学生の関心、資質、態度の高揚を図り、学生同士、教職員と学生との絆を深め、幅広い、人間性の啓発に努め、予期した成果をあげている。

- (2) 医療の高度化、専門化、複雑化に伴う最新の看護知識と技術に支えられた責務遂行能力を持つ人材の育成：本年度も昨年度と同様、情報処理、解剖学、生理学、各実習室などに最新の教育設備を整え、個々の学生が自ら納得のいく学習ができる学習環境の提供に努めている。特に本年度は、情報処理、心電計等の教材機器の整備拡充、人体解剖学見学実習等の取り入れにあわせて、学生が個々の能力に応じて、理解が深めることができるよう、指導体制の充実に努めている。
- (3) 教員は専門分野毎にコアシステムを採用し、教育計画が学生の学習進度に即応しているか、指導をどう進めるかを点検、評価できるようにします：本年度は、昨年取り入れたコアシステムを活用して、その効果が看護実践の教育過程に十分反映されるよう、看護実践科目特に、臨床実習のあり方、指導体制の調整、実習施設の拡充に努め、学生のニーズに応えられるようにしている。
- (4) 学生の確保：本年度は推薦入試、一般試験入試、入試センター試験利用入試の取り入れなどを図り 4.5 倍に上る志願者の中から志望動機のしっかりした学生を得ることができた。しかし、これに甘んじることなく、将来の受験者数の減少を視野に入れ、現在、更に志願者の積極的な参加を見込んだオープンキャンパスのあり方、進学説明会の方法、ホームページの内容などについて検討を行い、来年度に向けた広報活動の充実に力を注いでいる。
- (5) リカレント教育を中心に講演会やセミナー、公開講座、実技講習会、個別指導等を通して、大学が地域における看護についての教育研究の中心になるようにします：この一環として、昨年10月、緩和ケアの現状と方向性、ドメテイスック・バイオレンスと看護の役割、あなたの心はまがっている？－心電図実習－、新しい診療体制とこれからの看護－診療報酬改訂と看護管理－、精神科の臨床における看護師の思考と行動－クライアントの攻撃に対する看護対応を通して－、電子情報と倫理等最近のトピックスを中心に、第2回リカレント教育実施した。今年度も引き続き第3回リカレント教育を行うべく準備を進めている。また、本年度はこの他に、地域貢献の実を図るべく本学を拠点にした研究会を立ち上げも進めている。
- (6) 教員の資質の維持向上の方策：教員の学内外での自己研鑽を進める機会として、各種研究学会や研修会への参加や活動を積極的に進めてきた。その一環として、昨年は弘前学院大学看護学部紀要第2号を発行した。今年度もこの方針を継続し、資質の向上に努めていく。